

2026年賀式校長挨拶（2026.1.8）

皆さん あけましておめでとうございます。

「一年の計は元旦にあり」と言います。去年を振り返り、新たな志を立てるには新年は本当によい機会だと思います。また、今年度も残り三か月。それぞれ、過去を振り返り、新たな志を定めて、まずはこの三か月、そしてこの2026年を素晴らしい年にしてほしいと思います。

さて、今日は年賀にあたって、私から三つのお話をいたします。

一つ目は、昨年11月28日に発生した事案について、その後の報告と皆さんに考えてほしいことについてです。二つ目は、二学期始業式でお話した7限問題解消についての進捗状況についてです。そして三つ目は、昨年12月14日に新たに立ちあがった武蔵の学校山林を舞台にした武蔵百年の森づくりプロジェクトについてです。

まず11月28日に発生した事案のその後についてです。

学校としては、すでに弁護士や児童精神科医の先生などからなる調査委員会を立ち上げ、事実はどうだったのか、なぜ起きたのか、今後どうすればよいのかについて、鋭意調査検討を進めています。関連する生徒諸君にもすでにヒアリングをしていただいているところですが、できれば今年度末までに、調査委員会からの報告もいただいたうえで、学校としての対応についても速やかに検討していきたいと考えています。

この事案は、前にもお話ししましたが、少年法で特に守られるべき14歳未満の生徒同士の小競り合いに端を発しています。少年法は、未成熟な少年の今後の矯正・成長を図ることを趣旨にしていることから、生徒個人が特定されるようなことは決してあってはならないし、生徒が在籍する武蔵の名前が大きく報じられることは本来ならば好ましいことではありませんが、あの日、あっという間にネットニュースやテレビの速報が流されたのは、皆さん知ってのとおりです。それだけこの学校が社会から、世間から注目されているということだと思います。

事案発生翌日29日朝の全校生徒集会でお話したように、この件での二次被害が起きてしまうことは絶対に避けなければなりません。不用意な発言や行動はあっという間に二次被害をもたらします。皆さんはこのことを理解し、しっかりと対応していただけていたと思いますが、改めてよろしくお願ひします。また、時節柄、この事案は、これか

ら武蔵を志望する小学生の受験生の皆さんにも大きな不安を与えたと思います。このため、私も可能な限り、関係する塾や出版社などの皆様にもご説明をしましたが、そうした中で、武蔵の在校生から「大丈夫だよ」というメッセージがすでに届いていますといふお話を複数の方からいただきました。私は、そうした武蔵生がいることを、嬉しく思いました。

さて、改めてこの事案をどうとらえるか。11月29日の全校生徒集会でもお話ししましたが、今回の事案は「武蔵の自由」が問われている問題だと思います。

いくら自由だといっても、人の生命に、人の身体に危害を与える自由はない。これは誰しも思うことです。でもそれが起きました。ならば、武蔵をこのまま自由な校風の学校のままにしておいてよいのか。こうした問題が生じた以上、自由を制限し、生徒諸君への管理を強めなければならないのではないかという問題指摘です。

武蔵は自由でのびのびとした校風を、長い歴史の中で、継承してきました。しかし、自由に伴う課題、そしてそれに対する対応は、昔から武蔵生の間で問題意識として持ち続けられてきました。

具体的に言うと、「自由と身勝手は違う」あるいは「自由には責任を伴う。責任のない自由はない」という問題です。これは皆さんのが入学したときに配られる「学校生活の手引き」にも毎年書かれている言葉です。

かつて武蔵で長く校長を務めた大坪秀二校長は、私が在学していたころの校長先生でしたが、50年前の当時の武蔵を評して、「集団的無責任」という言葉で生徒たちに語りました。「武蔵生は一人一人は道理がわかつて良識があるけれど、集団になると無責任になる」。おそらく大坪校長は、戦争の体験者であることから、戦争へと突き進んだ戦前の国家体制をもたらしてしまったことへの自戒も込めて、「集団的無責任」であつてはならないと、生徒たちに語ったのだと思います。私は今回の事案を踏まえ、その「集団的無責任」の問題が、残念ながら、未だ解消できていなかつたのではなかったかと悔やまれます。

私は常々、諸君に「人権感覚」とか「公共心」と言ってきました。これは武蔵の卒業生として、武蔵の良さを誇りに思ったうえで、陥りやすかった課題を私なりに評した言葉です。「人権感覚」とは、人を大切にできる感覚、一線を越えてはいけないラインを察知できる感覚です。今回の事案はその一線を完全に大きく超えてしまいました。

なぜ超えてしまったのか、逆の立場から言えばなぜ彼をして超えさせてしまったのか、さらに超えてさせてしまうような空気感はなかったのか。そういう課題が私たちに突き付けられていると思います。

もし、それらの課題が解決できないのなら、やはり、武蔵の自由は制限せざるをえないのだろうか。

私は決してそう思いたくはありません。この武蔵を管理型の学校にすることは全く適切でないと思います。自由でのびのびとした時間・空間・仲間の中で、試行錯誤をしながら、わくわくワイワイと成長していく。その中で、真の自由を手に入れていく。それが「武蔵が武蔵であることの価値」です。

真の自由とは何か。私個人の意見を言えば、ふたつの「じりつ」がキーワードだと思っています。一つは自分で立つという自分で決めるというセルフスタンダードの「じりつ」。もう一つは自分たちで自分たちを律する、セルフコントロールするという「じりつ」。これが難しいんですね。この二つの「じりつ」を手に入れることができ、本当の意味での自由につながっていきます。その真の自由の獲得に向けて試行錯誤をする上で、この武蔵の時間空間仲間は、かけがえのないものだと思います。

だから、真の自由の意味について、本気になって武蔵生全体で考えなければ、武蔵の自由は守り継承されていくことはないと思います。

高校生の諸君も、自分たちの中学校時代を振り返ると、おそらく小競り合いもあったと思います。でも、集団の構成員は多様です。自分とは意見の合わない人がいても、根底に他者に対する「リスペクト」が必要だと思うのです。ぜひ生徒諸君には、自分ごととしてとらえて、二度と武蔵でこのような事案が発生しないように、まさに自ら考えてほしいと思います。

もう一つ、自由の問題について、そして大坪先生のお話された「集団的無責任」の一例として、あえて具体的なお話をさせてもらいます。教室内の美化・環境整備です。

私は今年の中1諸君と校長面談をしていて、「武蔵どうですか」と聞くと、皆武蔵を気に入ってくれて「楽しい」という一方で、いやな点として「教室が汚い」という生徒が数多くいました。彼らに話を聞くと、掃除してもすぐにゴミを散らかす人がいる、床

に荷物を平気で置く人がいる。どうしたらいいんでしょうと聞くと、「女子がいないから無理だ」という生徒もいました。どうなんでしょう。

ゴミを捨てる自由などはないと思います。また、もしゴミ箱がゴミであふれていたら、工夫の仕方はいくらでもあると思います。まさにそれは「公共心」。自分の幸せだけでなく、みんなの幸せを考えるささやかな「公共心」があれば、解決できる問題ではないかと思います。

ぜひ、真の自由の問題を考えるとともに、その問題の各論として、すべての学年で、教室の環境整備・美化については真剣に考えてほしいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

信頼を失うのは簡単ですが、信頼回復は厳しい道のりです。でも、私は武蔵生を心から信頼し、誇りに思っています。みんなで力を合わせて、この難局を乗り切っていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

さて、二つ目の話です。

2学期始業式にお話しした「7限問題」解消の進捗状況についてです。

改めて2学期にお話しした内容を復習しておくと、武蔵では、国の学習指導要領の改訂に伴い、2022年度から高校カリキュラムを変更し、今年で4年目となったところです。このうち、高校1年生のカリキュラムでは、様々な科目を削ることはできないという観点から、7限を増やし、第二外国語も含めると、水曜以外は、月曜から金曜まで、高1については7限を置かざるをえないといふわゆる「7限問題」が発生しました。

実際この間、この教育課程を実施してみて、高1生の忙しさが課題となってきました。本校の特色である「第二外国語」の履修者が減ったり、「高校総合講座」や大学との「高大連携講座」の履修者が減ったり、放課後の時間を活用した自主的な学び、自学自習の時間が減ったりしているのではないかなど、課題も見えてきたところです。

このため、生徒・教員からの要望を踏まえ、高1の7限を2コマ解消する方向で、現在検討を進めています。生徒諸君には、2学期当初の始業式で、「おそらくは来年度当初というより、移行措置もあるために、再来年度当初から、つまり現在中2生が高1になるときから7限解消をする見通しで、変更に向けて検討の結論は、今年度末に伝える予定」と話しました。

そうした中で、今回、高2の生徒諸君から、高2の哲学探究を他の学年に移行することへの反対の署名活動が行われ、その署名を12月18日に拝受したところです。生徒諸君が自分たちの受ける授業に関心を持ち、意見を表明することは武蔵生らしい良いことだと受け止めています。

ただ、これは実は、7限問題解消の検討過程の中で、教員間で検討されている案が部分的に生徒に伝わったことに端を発しています。おそらくカリキュラム変更案の高2部分、特に「哲学探究」に焦点があたっているのは、今年度のその科目的授業が、高2の生徒たちにとって意義深いものとして受け止められていることによる理解しています。

一方で、7限を解消するという本当に困難な課題解決のためには、現行の教育課程の良さも残しつつ、色々な視点からパズルを出し入れするように、総合的に検討していく必要があります。先生方の議論は実に長時間を要しています。部分最適が、必ずしも全体最適になるとは限らないのが、難しいところです。署名を提出していただいた生徒たちとは今後、さらに何らかの意見交換の場を設けて、7限解消の方策を考えていきたいと思っています。よろしくお願ひします。以上経過報告です。

最後に12月14日に行われた武蔵百年の森プロジェクトについてです。

武蔵は埼玉県毛呂山町、西武線でいうと武蔵横手や高麗の間に、独自の「学校山林」を持っています。学校がこうした山林を持っていることはとても珍しく貴重なことだと思います。

この武蔵の学校山林は、1940年に皇紀2600年の記念事業として、当時の父兄会、現在の保護者会からの寄付金により土地を購入し、植樹を行ったことに遡ります。当時は太平洋戦争直前で、日本中が紀元2600年のお祭り騒ぎをしていた時代でしたが、当時の校長山本良吉先生は「目先のお祭り騒ぎより遠い将来に意義を求めること」を生徒たちに説き、国家の歩みへの批判も込めて国土緑化運動を果たしたのでした。

その後、学校山林は現地近くの方に管理をお願いして維持管理に努め、1960年以降は、毎年春に、入学したばかりの中学生がこの地を訪れて親睦を図るとともに武蔵の精神を学ぶ場ともなってまいりました。

長年管理人を務めてくださったのが駒井さんですが、コロナ以降、ご高齢ということもあり引退となりました。管理人の存在がなくなり、この学校山林の管理をどうしようか思案していたところ、このたびNPO法人しんりんの大場隆博さんとの奇跡のようなご縁をいただきました。大場さんがこれまで宮城県の森林保護で取り組んで来られた「地域循環共生圏の創造」は私たちの思いと大いに共振するものでございました。そして新たな森林管理を進めるにあたり、この新しいプロジェクトを「武蔵百年の森プロジェクト」と命名いたしました。

古代中国の春秋時代、齊（せい）の桓公の名宰相と言われた管仲の言葉に由来するものとして、次のような言葉があります。「一年を思うものは穀物を植えよ。十年を思うものは木を植えよ。百年を思うものは人を育てよ」。私は森づくりはまさに人づくり。そして人づくりは百年先を見据えた大計であると思います。

その第一回の現地プロジェクトが、12月14日に学校山林で行われ、中1から高2まで12名の生徒諸君を含め28名の方が参加しました。

今回の最大の目的は「間伐」。学校山林には見事なヒノキが植わっていますが、手入れができていませんでした。そこで、つまりいくつかの弱っている木を切って日当たりをよくすることにより、他の木の成長を図ろうという森林管理です。これまで間伐が実施できていなかったのですが、今回しんりんさんの力を借りて17本の木を伐倒しました。私も、サポートをいただいて、生まれて初めてチェーンソーを使って檜を一本切りました。重かったです。サポートしていただいたしんりんの方はすごい熟練の技で、こうやって木は切るんだと感動をしました。参加した生徒たちは、切ったヒノキ材からとれた、あまりの材木、つまり間伐材を使って、今後武蔵生が現地で使えるように、その場でベンチや椅子を作ってくれました。

この百年先を見据えた「武蔵百年の森プロジェクト」は今後、環境学習のフィールドとして学校山林を活用するとともに、そこで得たヒノキの間伐材の活用もうまく図っていかなければと思います。

今回参加した諸君も、コアメンバーとしてこの百年の森プロジェクトの進め方について知恵を出してくれると思います。また全校生徒に対する案内もあると思いますので、奮って参加していただければと思います。

以上、年賀式にあたって、三つのお話をしました。11月28日の事案の件について、7限解消の問題について、武蔵百年の森プロジェクトについてです。すべて大切な事柄です。どうぞよろしくお願ひします。

あと一点、連絡事項があります。今年も韓国の漢栄外国語高校から三名の留学生が二週間武蔵にやってきます。三名とも今年は女子生徒になりますが、高1のクラスに入ります。どうぞ武蔵生のホスピタリティを發揮して、暖かく受け入れていただければ幸いです。

結びになりますが、今年は午年になります。何かよいことわざや四字熟語はないかなと探していました。

うまくいくです。馬に九、行くに久しいです。インド映画に“*All is well*”という映画があります。「きっとうまくいく」という日本語のタイトルがついています。インドの工科大学を舞台にしためちゃくちゃ面白い映画です。良かったらぜひ見てください。

きっとうまくいく。去年はいろいろなことがありました、武蔵はそれらをはねのけて、きっとうまくいく。良い年にしていきましょう。

以上で私の話を終わります。ご清聴ありがとうございました。